

(1) BLV (Bovine leukemia virus 牛白血病ウイルス) に対する対策のレベル選択

この BLV 感染については、過去に何度かこのマネージメント情報で取り上げています。

親子での感染（垂直感染）、初乳・吸血昆虫・注射針の使いまわし・除角・直腸検査・搾乳などから感染するといわれています。感染し発症する割合はごく僅かで、その感染による経済的損失もまだ不明な点がおおいのが現状です。この BLV は人にはまったく感染しないにもかかわらず、この牛白血病という名前から人への「食の安全」と関連付けて話をされることがあり、その対応は業界全体として定まっていないのが現状です。例えば、届出伝染病を疑う場合、乳や肉を出荷できないという解釈がありますが、この「疑いあり」の基準がまだはっきりしていないというようなことがありますが、現状の食肉検査所での見解は、抗体陽性だけで受け入れ拒否はしないというような具合です (BLVdonai メーリングリスト上でのやりとりから)。また、今回の宮崎県での「疾病フリー化宣言」などにもみられるような、導入牛（購買牛）への影響も考えられます。一方では、ワクチンの開発などもあるようです。いずれにせよ、今後は、この白血病の実際的な農場での損失の検証とともに、生産物の出荷・販売にたいする扱いなど、その行方を注視していかなければなりません。同時に、その感染予防をどのように農場で行っているのか、獣医師と農場との間でしっかりと相談をしていかなければならないと思います。

さらに、別海町自衛防疫組合では、公共牧場入牧牛の全頭検査とその摘発（浸潤調査？）を考えているようです。この町牧で陽性牛が見つかったと集荷元牧場への立ち入り検査を要請するというこのことです。

今回紹介するのは、石井動物病院の石井先生が顧客に示している、BLV のレベル別対策です。図 1（若干の書き換えあり）何か対策について希望や注文がありましたら、いつでも誰にでも申し出ていただきたくお願いします。まずは、農場での自発的浸潤調査などを薦めたいと思います。

黒 崎

図1 出典 石井一功 Modified kurosaki

Level	0	1	2	3
初乳マネージメント(殺菌等)	×	△	○	○
1頭1針	○	○	○	○
除角器などの消毒 方法の変更	○	○	○	○
サシバエ対策	×	×	△	○
直腸検査対策	×	△(抗体陽性を最後に)	○	○(すべて1頭ごとと交換)
抗体検査	×	○(1回/年)	○(数回/年)	○(数回/年)
搾乳順番や群分け	×	×	△	○
基本的姿勢	特になにもしない	陽性率の変化観察	より積極的な検査と 変化観察	対策の徹底と清浄化

(2) On Farm Culture (農場での細菌培養)について

事情によりさらに次回とさせていただきます。

過日、帯広畜産大学で、日本獣医学会学術集会があり参加してきました。私は日本獣医学会評議員という役目もあって参加してきました。ちなみに評議員のほとんどは大学の教授か準教授クラスになるのですが、なぜか私だけ単なる開業医でありながら、その任に当たっています(笑)。それはそうとして・・・、明年当社で採用予定の帯広畜産大学の住谷君(写真左)と東京農工大学の奥君(写真右)に会ってきました。奥くんは、今回の学術集会での発表のために来道していました。発表は、微生物分科会(免疫)で、標題は「アトピー性皮膚炎病態形成におけるFc受容体γ鎖の意義」というものです。正直、なんのことかよく分かりませんが・・・。発表を翌日午前9:00に控えていたにもかかわらず余裕で、夕食事と2次会・3次会まで付き合っていました。住谷君は地元でもあり、翌日の発表もないためか結構、よい調子で酔っていました。

二人とも、元気いっぱい以来年の国家試験を是が非でも合格してTHMSで頑張ると誓ってくれました。どうぞ皆さんもこの新しい戦力に大いに期待してください。二人ともよい体格をしています。来年からは獣医師が8人となります。検診から診療までこれまで以上に気軽に利用してください。

